

## 令和 4 年度 “「長久手市役所の仕事」通知表” の作成（外部評価）①

## 令和 4 年 8 月 3 日 開催概要

開催概要	
会議等の名称	令和 4 年度行政評価・外部評価① 「生涯学習推進事業」【生涯学習課】
開催日時	令和 4 年 8 月 3 日（水） 午後 2 時から午後 3 時まで
開催場所	市役所北庁舎 2 階 第 5 会議室
出席者氏名 （敬称略）	<外部評価実施者（行政改革推進委員）> 石橋健一、田村佳子、樋口和則、安立憲市、近藤恵美子 <担当課> くらし文化部長 門前 健 生涯学習課長 粕谷庸介 課長補佐兼事業係長 生田 創 <事務局> 総務部長 加藤英之、総務部次長 福岡隆也、 行政課長 若杉雅弥、課長補佐 水草 純、庶務係長 佐藤雄亮
傍聴者人数	3 人
問合せ先	長久手市総務部行政課 0 5 6 1 - 5 6 - 0 6 0 5
備 考	

外部評価実施者の 質疑、意見等	<p>（委員）</p> <p>学びアイ講座はさらに PR するべきである。講座の実施状況はどのようか。</p> <p>⇒平成 2 0 年に開始して以来、7 4 7 人の講師申し込みがあり、2 7 6 講座が開講された。年毎の開講率は 5 5 % ほどである。</p> <p>（委員）</p> <p>講座の数は、開催数か。それとも講座の種類の数か。</p> <p>⇒開催数は講座の種類の合計で、2 7 6 である</p> <p>（委員）</p> <p>事業内容として自主サークルの立上げ支援を行うとあるが、立上げ後に市は一切関与しないのか。</p> <p>⇒市の施設使用料の減免が得られる等、立上げ後にも支援する仕組みがある。</p>
--------------------	--

(委員)

生涯学習講師人材バンク制度とはどのような制度か。

⇒自分が得意な分野で、教えたいという気持ちがある人が、こんなことができるのと生涯学習課に申し出る制度である。申出のあった内容を人材バンクリストとしてまとめ、窓口で閲覧できるようにしている。

(委員)

人材バンクリストは窓口でしか閲覧できないのか。

⇒インターネットでも閲覧できるが、連絡先は窓口でしか伝えていない。

(委員)

自主サークルの立上げを支援しているとのことだが、立ち上がったサークルはいくつあるのか。

⇒令和3年度は、開講した10講座のうち、7講座が自主サークルとして立ち上がった。

(委員)

学びアイ講座から発足したサークル以外のサークルに対しては、公民館として何か優遇しているのか。市のサークルに対してロッカーを貸し出す等。

⇒していない。

(委員)

行政の関わり方として、市民らが自発的に学ぶことの手助けをするのが理想だと思う。立ち上がった自主サークルにPRの助言をしたり、自主サークルの情報をまとめて発信したりすると良いと思う。

(委員)

学びアイ講座について、行政頼みの構図となってしまうことが課題とのことだが、行政頼みとはどのような状況なのか。

	<p>⇒講座のPR、場所の確保、当日運営について行政に頼るケースが多い。それを、先生と受講者で自主的にやってもらえると良い。</p> <p>(委員)</p> <p>サークルの立上げ時にはパワーがいるため、行政のサポートが必要である。行政に頼りすぎないようにバランスを取るためには、行政が関与の量を減らしていくことが必要だが、減らし方に気をつけないと行政に対する不満が高まる。</p> <p>例えば会社のマネジメント層にいたことのある人は、組織の運営に長けているので、サークルのアドバイザーとして、名簿の管理・連絡網の作成などを任せることができる。そういった人を配置することを支援するという関わり方なら、バランスよく行政の手を離れていけるのではないか。</p> <p>(委員)</p> <p>市の公民館講座としては、学びアイ講座の他に、史跡めぐりと囲碁講座の2講座があるとのことだが、他の事業や施設と連携した講座を増やさないか。エコハウス、リノモテラス等。</p> <p>⇒学びアイ講座を伸ばしていきたいと考えている。講座と講座の横のつながりを手助けする仕組みは今のところないが、市の務めだと思う。講師や受講生から要望があれば進めていきたい。</p> <p>(委員)</p> <p>成果指標を講座満足度としているが、受講者への満足度アンケートだけでは、満足したかしていないかだけなので、学習意欲が高まったのか、生きがいが高まったのかは分からない。事業意図と課題の構造を考え、目標が達成されたかどうかの指標を示すことができるようにしてほしい。</p>
<p>講評・まとめ</p>	<p>受講生らが自主サークルを立ち上げ、運営することは、行政の手助け無しには難しく、また、行政がどのように手を放していくかも難しい。例えば、現役時代、マネジメント業務を行っていた人でリ</p>

タイアした地域の人を、サークル運営のアドバイザーになっていただくよう支援してはどうか。

成果指標を講座満足度としているが、事業意図である豊かな学習機会の提供や市民の学習意欲の高まりをはかることのできる指標を検討してほしい。

令和4年度「長久手市役所の仕事」通知表の作成（外部評価）②

令和4年8月3日 開催概要

開催概要	
会議等の名称	令和4年度行政評価・外部評価② 「放課後児童クラブ事業」【子ども未来課】
開催日時	令和4年8月3日（水） 午後3時10分から午後4時10分まで
開催場所	市役所北庁舎2階 第5会議室
出席者氏名 （敬称略）	<外部評価実施者（行政改革推進委員）> 石橋健一、田村佳子、樋口和則、安立憲市、近藤恵美子 <担当課> 子ども部長 山端剛史 同部次長兼子ども未来課長 飯島 淳 課長補佐兼児童係長 柴田浩善 <事務局> 総務部長 加藤英之、総務部次長 福岡隆也、 行政課長 若杉雅弥、課長補佐 水草 純、庶務係長 佐藤雄亮
傍聴者人数	3人
問合せ先	長久手市総務部行政課 0561-56-0605
備考	

外部評価実施者の 意見等	<p>（委員）</p> <p>加入希望者の受入割合が100%に少しずつ足りていない状況について、事前質疑によると、受入体制が整わないためとのことだが、その理由は何か。</p> <p>⇒東小と北小と市が洞小学校は校区ごとに2か所の児童クラブを設置しているが、西小と南小については、確保できる受入場所が限界に達しており、1か所ずつしか設置できない。また、児童クラブ指導員についても、現在の8名では足りない状態。募集はしているが、応募がない。</p> <p>（委員）</p> <p>定員より少し多めに受け入れているとの説明だったが、それを加味しても100%に達していないのか。待機児童がいるということか。</p> <p>⇒令和4年度は、西児童クラブで6名、南児童クラブで27名の</p>
-----------------	--

待機児童が発生している。なお、低学年児童については定員の80名を超えても受け入れている。放課後子ども教室と放課後児童クラブを一体化すれば、施設的な問題をクリアできる可能性があり、検討している。

(委員)

空き教室を活用して解決できないのか。

(委員)

長久手市は子どもが増え続けているので、空き教室がないのではないか。

⇒数年先まで、小学生の数は増えていく見通しである。また、学校は普通教室以外にも、通級指導の環境を整える必要があり、教室数に余裕がない状態と聞いている。図書室や体育館など、いろいろな可能性を粘り強く協議していきたい。

(委員)

空き教室を活用して学びの場を提供する放課後子ども教室と、放課後児童の居場所を確保するための放課後児童クラブは、目的が大きく異なる。一体化したとして、放課後子ども教室では居場所づくりの役割を果たすことはできないと考える。いっそ子ども教室をなくすことも一つと考える。

⇒名古屋市のトワイライト、日進市の放課後子ども総合プランを参考に、機能を損なわず時間帯で分ける方法を検討している。

(委員)

学童保育所は父母会の負担軽減のため、NPOやワーカーズコープ等、父母会の運営によらない運営方法を検討するとのことだが、父母会が運営するからこそ、利用者の視点に立った良いサービスが提供できるという考えもある。父母会から助けを求められているのか。

⇒求められている訳ではないので、父母会に対しては、安定した経営ができる方法の1つとして紹介していく予定である。

	<p>(委員)</p> <p>指導員不足の問題について、保育士資格が必要だと誤解している人が多いかもしれない。</p> <p>⇒県の研修に参加すれば児童厚生員の資格を得ることができる。</p> <p>周知を考えたい。</p> <p>(委員)</p> <p>市総合計画の基本目標に『子どもが元気に育つまち』とあり、大切な事業ではあるが、多様化するニーズに全て応えようとする、コストが肥大化する一方である。</p> <p>例えば、市は必要最低限だけ安全に預かることを担い、不足する分は民間を活用する。民間の負担の一部を市がいくらか負担する手段も考えられる。公平性を担保しつつ運営することが重要である。</p> <p>市民に対しては、市は最低限こういったことを担う、と根拠や事業の目的を明確にアナウンスし、理解を得ていく。</p>
--	--

<p>講評・まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・待機児童の解消は、必ずしも行政のサービスで全てまかなう必要はない。多様化するニーズには民間の預かりサービスで対応してもらおうよう、民間と連携すると良い。その際、行政はどのようなニーズに応えられるようにするのか事業意図を明確にし、市民にしっかりアナウンスすることが重要。</li> <li>・指導員不足の問題については、資格要件がハードルになっている可能性がある、求人する際に工夫して発信すること。</li> </ul>
---------------	---

令和4年度「長久手市役所の仕事」通知表の作成（外部評価）③

令和4年8月5日 開催概要

開催概要	
会議等の名称	令和4年度行政評価・外部評価③ <b>「清掃事業」【環境課】</b>
開催日時	令和4年8月5日（金） 午後2時から午後3時まで
開催場所	市役所北庁舎2階 第5会議室
出席者氏名 （敬称略）	<外部評価実施者（行政改革推進委員）> 田村桂子、室 淳子、岡崎信久、細萱健一、近藤恵美子 <担当課> くらし文化部長 門前 健 環境課長 富田俊晴 ごみ減量推進係長 大谷 悠 <事務局> 総務部長 加藤英之、総務部次長 福岡隆也、 行政課長 若杉雅弥、課長補佐 水草 純、庶務係長 佐藤雄亮
傍聴者人数	3人
問合せ先	長久手市総務部行政課 0561-56-0605
備考	

外部評価実施者の 意見等	<p>（委員）</p> <p>成果指標の1人あたりのごみ排出量について、平成24年度当時に17パーセント削減目標を立てたとの説明があったが、達成目標年はいつなのか。後の説明では、15パーセント削減という数字も出てきたが、どのような違いか。</p> <p>⇒平成26年度から令和5年度までに17%削減という目標である。後者については、令和元年度実績から目標値まで15%削減する必要がある。</p> <p>（委員）</p> <p>1人当たりごみ排出量は平成28年度までは減少し、その後横ばいに推移し、近年はコロナの影響等で増加しているとのことだが、平成29年度から横ばいになった原因は分析しているか。</p> <p>⇒分析できていない。家庭ごみの組成調査の結果を見ると、プラ</p>
-----------------	---



スチック製容器包装や紙ごみの混入が多いことが分かっている。

(委員)

分別ルールが市民に行き届いていないのかもしれない。市民への周知は十分に実施できているのか。

⇒ごみ出しカレンダー、分別ガイドブックを全戸に配布し、ホームページでも公開している。また、スマートフォン向けアプリ「さんあ〜る」を配信しており、分別種別を検索できる機能もある。アレクサという音声案内サービスにも対応するようにした。

(委員)

若い世代は紙媒体の資料は見ないのではないか。次世代教育を薦めることも必要だが、実際にごみ出しをしている人々を対象として啓発を行うべき。

⇒若い世代にごみ分別アプリは魅力があるようで、インストール数は順調に伸びている。また、転入者に対して転入手続の際にごみ出しの案内をすることで、ごみ出しのルールを周知するようにしている。しかし、学生など一部の人は転入時に案内を受けない人もいるため、対策を考えていきたい。

(委員)

市民がごみ減量に対してどのような意識でいるかを把握しているか。市民が親身にならないと行政からの一方通行では減量効果は生まれない。

⇒地域説明会で市民の意見を聞くと、ごみを減らす必要性は概念としては理解しているようだ。また、近年の傾向としてごみ処理場の延命化のため等のごみに限った説明よりも、SDGs やカーボンニュートラル等の他問題と絡めて伝えた方がごみ減量の意欲がわくようであった。

(委員)

ごみ減量を進める上で、ターゲットは意識しているか。極端に言うと、ごみ処理手数料の増額は裕福な世帯にはあまり効果がないと

言える。

⇒ごみ処理手数料の値上げは、国からも経済的な動機付けでごみの減量化を進めるようにとの通知があり、ごみを減らすための有効的な方法の1つとして提案している。市民の所得を分析したわけではない。

(委員)

分別啓発をどのように行えば個人が真剣に考えるのか、市だけで考えていても状況は変わらないので、地域に上手く入って状況を分析し、説得力のあるデータの提示やSDGsの話絡める等工夫するべき。

(委員)

分別方法の周知について、忙しくて分別ガイドブックやアプリを見ることのできない人のため、ごみ袋の表面やごみ袋の包装ビニールに、混入してはいけないごみを掲載してはどうか。

⇒現在は入れて良いものを掲載している。検討する。

(委員)

ごみ処理手数料の値上げはごみ減量を促す方法であるが、市民にとっては単にごみ袋の値段が上がると思われてしまうこともあるのではないかと。値上がりした分をどのように市民に還元するのか、オープンにしていくべき。

⇒令和3年8月に値上げについて市民に周知した際に増収分の用途も書いたが、値上げのことだけが目立ちすぎてしまった。見せ方の工夫が必要だったと感じた。

(委員)

ごみ減量説明会を実施し、市民の反応はどうか。

⇒最も多いのは、話だけ聞きにきたという市民。市の話は理解したが、賛成と声を発するわけではない。他には、生ごみや紙おむつ等、減量が難しいごみはどうしようもないとの声があった。

(委員)

ごみ処理手数料増額による減量効果は、最初は話題性で減量が進むが、一時的だと思う。やはり分別を徹底的に周知する必要があると思う。

(委員)

市民への伝え方として、ごみを減らさないと怖い未来があるという方法も効果的だと思う。店のごみ袋売り場に、地球温暖化の危険性を書いたものを掲示するなど。

(委員)

資源を回収する場所が市内に多くあると良い。学校や商業施設等。生ごみは農業の場と連携できると減量が進むかもしれない。試みていることはあるか。

⇒資源回収ステーションであるエコハウスを、今年度さらに増設する予定である。生ごみのたい肥化は、マッチングが難しく実現していない。今年度も生ごみの減量施策については模索していきたい。

(委員)

成果指標の設定について、清掃事業の成果指標は家庭から出るごみの量としているが、中事業である循環型社会推進事業のアクションプラン指標では、家庭ごみに事業系ごみの量を加えた量を指標としている。事業系ごみへのアプローチはどのようなか。

⇒事業系ごみの排出量も把握している。令和4年度に初めて事業系ごみの組成調査を実施した。きちんと分別されており、優秀な結果だった。

(委員)

今後の事業の方向性について、ごみ袋の価格を増額し、とあるが、増額によって当初目標の17パーセント削減を達成することができるのか。

	<p>⇒令和5年度末は間に合わないかもしれないが、短期的に強い影響を及ぼすと思われるので、令和6年度あたりには達成できると考えている。値上げだけではなく、分別品目を増やす等して減量を進めていきたい。</p> <p>(委員)</p> <p>中長期の目標を見ると抽象的なことしか書かれておらず、値上げのことしか考えていないように感じるが、何か具体的に策はあるのか。</p> <p>⇒現在検討している追加する分別品目は、プラスチック製品である。まだリサイクルルートを開拓できていないが、プラスチックの分別は待たなしと考えている。また、生ごみや剪定枝についても重量を減らす工夫ができないか考えている。</p>
--	--

<p>講評・まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜごみを減らさなければならないのかを、丁寧に分かりやすく市民に伝えていく必要がある。説得力のあるデータの開示、SDGsやカーボンニュートラルと絡めた説明を行うと若者等にも伝わりやすいと思う。</li> <li>・ごみ減量説明会やパンフレット配布もいいが、市民の目につきやすいごみ袋売場やごみ袋の外包装に、ごみ減量が必要である理由を表示すると良い。</li> </ul>
---------------	---

令和4年度「長久手市役所の仕事」通知表の作成（外部評価）④

令和4年8月5日 開催概要

開催概要	
会議等の名称	令和4年度行政評価・外部評価④ <b>「児童発達支援センター事業」【子ども家庭課】</b>
開催日時	令和4年8月5日（金） 午後3時から午後4時まで
開催場所	市役所北庁舎2階 第5会議室
出席者氏名 （敬称略）	<外部評価実施者（行政改革推進委員）> 田村桂子、室 淳子、岡崎信久、細萱健一、近藤恵美子 <担当課> 子ども部長 山端剛史 子ども家庭課長 出口史朗 課長補佐兼療育支援係長 小田 豊 <事務局> 総務部長 加藤英之、総務部次長 福岡隆也、 行政課長 若杉雅弥、課長補佐 水草 純、庶務係長 佐藤雄亮
傍聴者人数	3人
問合せ先	長久手市総務部行政課 0561-56-0605
備考	

外部評価実施者の 意見等	<p>（委員）</p> <p>民間の児童発達支援施設は近隣にいくつあるのか。それらの施設と連携はしているのか。</p> <p>⇒市内に児童発達支援は6か所、保育所訪問は3か所ある。開所してまだ半年、今のところ連携はできていない。</p> <p>（委員）</p> <p>民間の施設とこぐまっこ（市の児童発達支援センター）との業務のすみわけはどのようなか。</p> <p>⇒基本的に業務は同じである。施設によって、運動の分野が得意であったり、リズム遊びの分野が得意であったりと、特徴はある。</p> <p>（委員）</p>
-----------------	---

保護者が払う金額は、市営に対してと民間に対してとでは異なるのか。

⇒保護者の負担は同じである。

(委員)

民業圧迫という点は問題ないのか。

⇒こぐまっこは指定管理料が支払われていることに加え、施設は市が用意しているため、民間事業者に比べ有利な状況である。その分、センターとしての役割を担い、他の民間事業者と連携して障がいの程度に適した支援を受けられるよう、施設を紹介していけると良いと考えている。

(委員)

中核のセンターの役割として、民間が適切な運営ができているのかの確認を行うこと。また、小学校との連携をすることが求められる。

⇒去年は年長児が属していないこともあり、まだ小学校との連携体制はできていない。しかし、市内小学校の特別支援学級を担当する教員と勉強会を開催するなど、交流は始まっている。

(委員)

小学校との連携はまだとのことだが、自立したとか、集団生活の中で行動できるようになることが発達支援の目標のはずであり、療育の結果がどうであったかは、小学校と連携しないとほかることができない。今は、施設がオープンしたばかりで、利用してもらいたいという思いが先行してしまうと思うが、成果があったかを常に反省できるようにすべき。

また、民間とこぐまっこのすみわけについて、民間の得意分野を有効に使うべきなので、連携体制を確保することが大切。

民間は受入れる余裕がまだあるのか。

⇒民間の空き状況は把握できていない。

(委員)

中核施設として振り分けようにも、空き状況の把握ができていな

	<p>いと始まらないので、把握しておくべき。</p> <p>(委員)</p> <p>指定管理委託を受ける民間事業者が中核的な役割を担うことについて、市は関与しないのか。</p> <p>⇒こどもの発達相談室という市の機関が療育支援について担っており、この機関が指定管理業者に研修を行ったり、コントロールしていく。</p> <p>(委員)</p> <p>子育て中の市民の中には、施設のことを知らず、家庭で一人で悩んでいる人もいると思う。こどもの発達相談室のパンフレットには「一人じゃどうにもならない時」と書いてあるが、利用する敷居は高いのではないか。</p> <p>利用者側が、市の直営であれ民間であれ、利用しやすいことが大事である。</p>
--	---

<p>講評・まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他民間事業者が児童発達支援事業を営む中で、市施設「こぐまっこ」は指定管理を受けて運営している。民業を圧迫することがないように注意すること。</li> <li>・定員の都合等で、近隣民間事業者を紹介する際は、適切に案内できるよう、それぞれの事業者と連携し、特徴、空き状況などを把握しておくが良い。</li> </ul>
---------------	--

令和4年度「長久手市役所の仕事」通知表の作成（外部評価）⑤

令和4年8月8日 開催概要

開催概要	
会議等の名称	令和4年度行政評価・外部評価⑤ <b>「防災事業」【安心安全課】</b>
開催日時	令和4年8月8日（月） 午後2時から午後3時まで
開催場所	市役所北庁舎2階 第5会議室
出席者氏名 （敬称略）	<外部評価実施者（行政改革推進委員）> 石橋健一、岡崎信久、細萱健一、安立憲市、近藤恵美子 <担当課> くらし文化部長 門前 健 安心安全課長 久保田直也 防災係長 鈴木洋輔 <事務局> 総務部長 加藤英之、総務部次長 福岡隆也、 行政課長 若杉雅弥、課長補佐 水草 純、庶務係長 佐藤雄亮
傍聴者人数	1人
問合せ先	長久手市総務部行政課 0561-56-0605
備考	

外部評価実施者の 意見等	<p>（委員）</p> <p>成果指標として、安心メールの登録者数の目標値を前年度比+10%としているが、今後の見通しはどのようなか。10年後に20,000人とあるが、具体的に何年までを想定しているのか。</p> <p>⇒1年ごとの計画があるわけではない。ざっくりと2030年あたりを目指している。</p> <p>（委員）</p> <p>10パーセントの根拠は適正なのか。目標を立てる上では、根拠が必要なので、根拠を明確にして進めてほしい。</p> <p>事業の対象は市民とのことだが、本当に市民だけなのか。</p> <p>⇒登録実績の推移から10パーセントと設定している。</p> <p>市内事業所も安心メールの登録対象者である。令和元年度に事業所も対象として広報を行ったところ、例年に比べ多くの登録があった。対象者を市民に限ることなく、目標値などもう一度</p>
-----------------	---



組み立てていきたい。

(委員)

資料番号5の「改善ポイント」について、自助共助の促進に心がけるとは、具体的にどのようなことを考えているのか。また、資料番号6の「事業の今後の方向性」について、安心メールの登録者を増やして防災力向上とあるが、近年の安心メールの配信内容は、自助共助を盛り上げる内容に欠けていると思う。

⇒配信内容は防災関係が10%、他は防犯情報が多いほか、令和2年度以降はコロナ関係のものも配信している。安心メールを日頃から使用してもらい、利用者を拡散させていくことがねらいである。

自助共助へのつなげ方については、例えば東日本大震災が発生した日である3月11日等の過去に大きな災害のあった日に、具体的な自助の取組の紹介を安心メールを使って行うなどしている。今後も、メール受信者が何かしらの行動を起こすきっかけとなるような配信をしていきたい。災害時は受け身になりがちである。情報は自分で取りにいたい。

安心メールに登録することが自助の第一歩で、そこから共助につなげていくと考える。

(委員)

・安心メールは情報が一方通行であり、災害時には双方向性の関係も大事である。

・メールの配信内容は、もう少し防災に関する情報を増やすべき。市民にきちんと響く内容となるよう、工夫してほしい。

・ハザードマップについてももっと市民に知ってもらうべき。

⇒地域で防災に関する話をする際、市民の心に響かせるには、長久手に特化した身近な内容を伝えていく必要があると考えている。

(委員)

・このあたりは大きな災害が起きにくいエリアと言われている。災

害を身近に感じられる、長久手で起こりうる事例をとりあげていくと良い。

・メールの双方向性は大事だが、発災時にネットワークが使用できない状態も起こり得る。

⇒市内10か所に災害時にサイレン・音声を流す防災無線がある。

(委員)

防災無線は、聞こえない地区もあり、全ての地区が網羅されているわけではない。

⇒地域の防災講習会でも、市民から聞こえないという声をいただくことがある。音声放送は市内全域に届くものではないが、サイレンは計算上は市内全域に聞こえるようになっている。また、防災無線で放送した内容を電話で聞くことができる音声放送テレホンサービスもあり、複数の手段で情報が得られるようにしている。

(委員)

防災無線があまり聞こえないという声が市民からある中、どのように対応しているのか。

⇒音による情報伝達には限界があるため、防災無線を増設する等のハード面の整備は予定していない。安心メールや市ホームページ、音声放送テレホンサービスなど、防災無線だけでなく様々な手段により情報伝達していく。

(委員)

防災無線が聞こえない地区が具体的にどの場所なのか、把握しているのか。

⇒把握していない。今後確認する。

(委員)

防災無線を全地域に聞こえるように設置することは金銭的な理由で難しいにしても、聞こえない地域がどこなのかを調査し、その

	<p>地域に重点的に他の情報サービスを周知することで、効率的な周知ができる。</p> <p>(委員)</p> <p>防災無線の聞こえない地域を調査するにあたっては、市役所職員だけで調べるのではなく、地域住民の力を借りて行うと良いのではないか。</p> <p>⇒参考にさせていただく。</p> <p>(委員)</p> <p>洪水時を考慮し、香流川の除草を実施しないか。</p> <p>⇒香流川は愛知県の管理であるため、市は除草しない。</p> <p>(委員)</p> <p>愛知県に除草の要望を出すことはできないか。</p> <p>⇒要望できるかどうか確認し、検討する。</p> <p>(委員)</p> <p>防災においてはインフラの整備が重要である。情報インフラ、災害時に活動できる人のインフラ、設備のインフラ、これらをどう整備するのか。実際にどう運用活用していくのかが課題。長久手市地域防災計画にインフラの整備について記しておくとう分かりやすい。防災は専門用語が多いので、小学生でもわかる言葉や絵を活用しながら説明できると良い。</p>
--	---

<p>講評・まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害に備えたインフラを整備するだけでなく、活用することを視野に入れた方策やメンテを実施するべき。</li> <li>・距離、費用の事情から防災無線が聞こえない地域があることは仕方ないが、その地域が具体的にどこであるかを調査し、また、防災情報の別の受信方法について重点的に周知すると良い。</li> </ul>
---------------	--

令和4年度「長久手市役所の仕事」通知表の作成（外部評価）⑥

令和4年8月8日 開催概要

開催概要	
会議等の名称	令和4年度行政評価・外部評価⑥ <b>「地域福祉推進事業」【福祉課】</b>
開催日時	令和4年8月8日（月） 午後3時10分から午後4時10分まで
開催場所	市役所北庁舎2階 第5会議室
出席者氏名 （敬称略）	<外部評価実施者（行政改革推進委員）> 石橋健一、岡崎信久、細萱健一、安立憲市、近藤恵美子 <担当課> 福祉部長 川本満男 同部次長兼福祉課長 近藤かおり 課長補佐兼福祉協働係長 岡藤彰彦 <事務局> 総務部長 加藤英之、総務部次長 福岡隆也、 行政課長 若杉雅弥、課長補佐 水草 純、庶務係長 佐藤雄亮
傍聴者人数	1人
問合せ先	長久手市総務部行政課 0561-56-0605
備考	

外部評価実施者の 意見等	<p>（委員）</p> <p>活動する団体はどの程度あるのか。特に前向きに活動している団体を2～3団体教えてほしい。</p> <p>⇒20団体ほどある。活動が活発な団体としては、西小学校区まちづくり協議会、小学生の見守り活動を行う草掛防犯ガード隊、道路や河川の清掃・整備を行う香流川をきれいにする会等がある。</p> <p>（委員）</p> <p>中長期の目標について、2025年頃までに地域住民の自主的な活動による見守りの体制等を構築するとあるが、見守りの体制とは具体的にどのようなものか。</p> <p>⇒自主的な活動の一例として見守り活動を挙げているに過ぎない。</p>
-----------------	--

今はスマイルポイントをきっかけに仲間づくりをしていた  
だき、ボランティア団体が育成されていくことを応援してい  
る。中長期的にはその団体が自主的に活動できると良い。

(委員)

団体でのボランティア活動はポイントの対象となり、個人が行う  
ごみ拾い活動などはポイントの対象とならない。市は団体の活動を  
推進していきたいということか。

⇒一人では大変な活動も、団体で行えば楽になることもある。ま  
た、スマイルポイントを活用したボランティア活動を通じて、  
市民同士のつながりをもってほしいという目的もある。共通の  
地域課題があった時に、情報共有が可能になる。

(委員)

市が主催する事業に参加する個人にはスマイルポイントが支給  
されているが、団体化推進の主旨と矛盾しないか。

⇒市が主催する事業の場合、市が参加者のとりまとめを行うの  
で、その後つながり作りを進めていくことが可能なので問題な  
い。

(委員)

ポイントをもらうことを目的として事業構成を検討する市民団  
体とは、どういうことをしている団体のことか。

⇒あるボランティア活動をしている団体は市から補助金を受け  
ているが、団体に所属している市民が個人としてボランティア  
活動をした時にスマイルポイントの申請をすると、二重取りの  
ような状況になってしまうため、制度設計に悩んでいる。

(委員)

・事業意図には、地域社会へ参加するきっかけ作りとあるが、き  
っかけ作りとはなにか。今まで活動したことのなかった人が活動す  
ることになることか。今は活動していないが過去に活動していた人  
が、再び活動することになることも含めるのか。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きっかけ作りが終わった後のエピソードも記載すると良い。</li> <li>・スマイルポイント制度はきっかけ作りとして有効だったのかを分析しているか。例えば、スマイルポイントをきっかけに、新たにある活動に参加し始めた人数を目標管理する等。</li> </ul> <p>⇒活動している人へアンケートをとったことはあるが、そのような意図では行っていない。項目を検討していきたい。</p> <p>(委員)</p> <p>令和2年のアンケートによると、スマイルポイント制度が始まる前から既にボランティア活動をしていた人は86%で、スマイルポイントをきっかけにボランティア活動をした人は12%。アンケート結果からすると、スマイルポイントの効果は大きいとは言えない。事業費が約1億円だが、どう考えるか。</p> <p>⇒社会福祉協議会への委託費が1億円の内のほとんどを占めており、スマイルポイント事業としては年間600万円程度である。</p>
--	--

<p>講評・まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマイルポイント制度によって、新たに地域に参加する人を増やしたいのか、一度離れてしまった人に再び地域参加してもらいたいのか、はっきりすべき。それに応じて、成果指標をより具体的にすると良い。</li> <li>・地域社会へ参加するきっかけを作った後のビジョンも考えると良い。</li> <li>・そもそもきっかけ作りとしてスマイルポイント制度が有効であったのかを分析し、その上で事業の今後について検討すべき。</li> </ul>
---------------	--

令和4年度「長久手市役所の仕事」通知表の作成（外部評価）⑦

令和4年8月9日 開催概要

開催概要	
会議等の名称	令和4年度行政評価・外部評価⑦ 「リリモテラス事業」【たつせがある課】
開催日時	令和4年8月9日（火） 午後2時から午後3時まで
開催場所	市役所北庁舎2階 第5会議室
出席者氏名 （敬称略）	<外部評価実施者（行政改革推進委員）> 室 淳子、樋口和則、安立憲市、近藤恵美子 <担当課> くらし文化部長 門前 健 同部次長兼たつせがある課長 磯村和慶 課長補佐 名久井洋一 <事務局> 総務部長 加藤英之、総務部次長 福岡隆也、 行政課長 若杉雅弥、課長補佐 水草 純、庶務係長 佐藤雄亮
傍聴者人数	1人
問合せ先	長久手市総務部行政課 0561-56-0605
備考	

外部評価実施者の 意見等	<p>（委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営協議会がリリモテラスの設立準備段階から関わっているとのことだが、具体的にどのようなメンバーで構成されているのか。</li> <li>・市とリリモテラス運営協議会と指定管理業者の関係はどのようなか。</li> </ul> <p>⇒運営協議会のメンバーは、4つのテーマ（観光交流、大学連携、多文化共生、子育て支援）に関わる団体の代表ほか、会長と副会長である。建築設計業務にも意見を反映しているなど、施設ができる前から携わっていた。</p> <p>施設ができてからは、指定管理者と運営協議会が月に1回程度会議を行い、イベントの企画や反省をしており、市も同席している。</p> <p>また、指定管理者運営会議にて、市は指定管理者に指示をしたり、相談にのったり、調整を行ったりしている。市が前面に立</p>
-----------------	--

つと指定管理者の主体性が損なわれるので、バランスをとりながら相談にのっている。

(委員)

リニモテラスを訪れてみると、市民が気軽に集うことのできる印象を受けなかった。ウォータークーラーもなければ、カフェも営業していなかった。どのような施設にしていきたいのか。

⇒どんな施設か分かりづらいという指摘は多々いただいております、PR不足を感じている。4つのテーマが混ざり合い、新たなつながりが生まれる場所にしていきたい。さらに、ふらっと寄っていただいておりますお休みできるウェルカムな場所でもあり、立ち寄った方に観光等のPRを行って市を盛り上げていきたい。

(委員)

・リニモテラス内のカフェの料金は民間のカフェと同程度の価格である。西小校区共生ステーションのコーヒー1杯100円と比べると、ふらっと立ち寄りにくいと感じる。

・誰でも気軽に来て良い雰囲気を、もっと表に出すと良い。

⇒ふらっと立ち寄る人をお出迎えする工夫については、十分でないと感じる。部屋の活用が進むよう、提案いただいた意見を取り入れていきたい。

(委員)

駅利用者の動線からは外れた場所にあるので、リニモテラスに誘導する看板等があるといい。噴水のある公園にはいつも人がたくさん集まっているようなので、そこから誘導できるといいのではないか。

⇒離接する長久手中央二号公園をリニューアルした時、案内表示によってリニモテラス公益施設への案内をするようにした。公益施設というネーミングも分かりづらいので改良していきたい。

(委員)



・車で向かう時に、気づきづらい。車から見てどのような施設があるか分かりやすい工夫があるといい。イオンの協力を得られるといい。

・イオンとの協力関係はあるかとの事前質問に対し、スタンプラリーと回答されているが、今後協力の予定はあるか。

⇒スタンプラリーは公益施設がオープンしたばかりの時に、回遊性を高める目的で実施した。駅、バスターミナル、公園、緑道それぞれが、それぞれの枠内で整備されているので、人の流れができるよう、溶け合うようにしていきたい。

(委員)

成果指標として、事業運営に関わる市民の数とあるが、1人がいろいろなイベントに関わった場合は1人という数え方なのか、それとも延べ人数なのか。

⇒延べ人数である。

(委員)

延べ人数ではなく、新たな参加者が何名増えたかを指標としてはどうか。

⇒コロナ禍で積極的な広報ができないため、新たな参加者の増加は見込めない。今のところは延べ人数の指標のままとしたいが、今後検討していきたい。

(委員)

事業のPRが不足していると感じる。訴求力が大事であるため、藤が丘駅にポスターを掲示するなど、検討してほしい。

⇒昨年度はコロナ禍で入場規制が必要な場面もあり、イベントの告知をしぼらざるをえなかった。

(委員)

イベントがあると親子層などを呼び込むことができるが、イベントがなく来場者が少ない時は、年齢層の高い市民向けに、知的好奇心をくすぐるような展示等が開催されると良い。

	<p>⇒ラティスという空間で、ながくてアートフェスティバル期間中に作品展示をしたことがある。芸大生による、まちの景観の発表も予定しており、展示スペースとしての活用は今後も検討していきたい。</p> <p>(委員)</p> <p>せっきくのユニークで素敵な場所なので、まだオープンして1年、コロナ禍でいろいろな制約のある中ではあるが、今日の委員の意見を参考にしているいろいろな連携の取組を進めていってほしい。</p>
--	---

<p>講評・まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果指標として事業運営に関わる市民の延べ人数を設定しているが、新たな参加者が増えているかをはかる指標も検討してほしい。</li> <li>・コロナのためイベント等での積極的な集客はしづらいかもしれないが、普段ふらっと立ち寄れるような工夫はあって良いと思う。</li> </ul>
---------------	---

令和4年度「長久手市役所の仕事」通知表の作成（外部評価⑧）

令和4年8月9日 開催概要

開催概要	
会議等の名称	令和4年度行政評価・外部評価⑧ <b>「緑化振興事業」【みどりの推進課】</b>
開催日時	令和4年8月9日（火） 午後3時から午後4時まで
開催場所	市役所北庁舎2階 第5会議室
出席者氏名 （敬称略）	<外部評価実施者（行政改革推進委員）> 室 淳子、樋口和則、安立憲市、近藤恵美子 <担当課> 建設部長 水野 泰 みどりの推進課長 山本一裕 緑化推進係長 作石裕介 <事務局> 総務部長 加藤英之、総務部次長 福岡隆也、 行政課長 若杉雅弥、課長補佐 水草 純、庶務係長 佐藤雄亮
傍聴者人数	1人
問合せ先	長久手市総務部行政課 0561-56-0605
備考	

外部評価実施者の 質疑、意見等	<p>（委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・里山保全活動を担う団体の構成員はどのような。</li> </ul> <p>⇒地元住民が多いが、それ以外にもいる。南部地区は区画整理組合が解散後に組合員がNPO法人を設立し、保全活動を担っている。</p> <p>（委員）</p> <p>成果指標として、里山保全事業イベント参加者数とあるが、イベントに参加することと、放置されたところを整備することでは、レベルが違う。課としてはイベント者数が増えるだけでは、不十分ではないのか。</p> <p>⇒小中学校の親子向けイベントや、大学生と連携したイベントを実施しており、まずは里山保全活動に愛着をもってもらい、そこから活動していきたいという人を発掘していきたい。</p>
--------------------	--

(委員)

市の南部はみなみ里山クラブの活動により保全が進んでいる。北の松杣地区も手を加えれば良い里山になる。都市部と田舎が混在するところが長久手の魅力である。さらに里山の保全を推進するために、大学生の若い力を借りるといい。ただし、大学生を一時の利用として便利屋的に使ってはいけない。

⇒昨年度愛知学院大学と連携し、薪割り、火起こし体験を平成こども塾で実施していた。近隣の他大学にも声がけをし、継続的に関わってもらえるよう、これまで以上に若い力を取り入れていきたい。

(委員)

留学生にとって、日本の里山は魅力的である。また、近年はSDGsやジブリパークは大学生にとって魅力的なテーマであり、ぜひ呼び込んでいくといい。

(委員)

先日、ござらっせの近くの香流川沿いを歩いていた時、ホテルを見かけた。自然発生したものではないのかもしれないが、風景に溶け込むホテルはとても感動的であり、長久手の良い所として大事にしてほしい。

(委員)

海上の森では、子供向け田植え・収穫体験イベントや餅つきなどが開催されていたり、林業体験のようなイベントも開催されていた。体験型イベントで親子を巻き込むといいと思う。ウォーキングルートを設定して歩いてもらう等、里山に親しみをもってもらえるといい。

(委員)

若い人も歩きたくなる散策路整備を行うといい。

講評・まとめ	<ul style="list-style-type: none"><li>・里山イベントに単に参加してもらうことと継続性をもった市民団体として里山の保全と活用を行ってもらうことでは、レベルが違う。担い手の確保につながるイベントの実施ができているか。</li><li>・若い担い手の発掘にあたっては、SDGs やジブリパーク等の情報を絡めて発信すると良い。</li></ul>
--------	--